

2024年度 調査結果（2023年4月発行）

海外留学生のキャリア意識と就職活動状況

新型コロナウイルス禍による渡航制限が緩和され、一時は大幅に減少した海外への留学生数も、徐々に回復傾向が見られる。ディスコでは、様々な制約を受けながらも海外の大学で学ぶ正規留学生や交換・派遣留学生を対象に、職業観や就職活動に関する調査を実施した。比較可能なものに関しては、国内学生（キャリアス就活・学生モニター）の調査結果を引用しながら、その特徴を分析したい。

【主な調査内容】

- | | | |
|----------------------------|----------|-----|
| 1. 海外での勤務希望と海外で働きたい理由 | ・・・・・・・・ | P2 |
| 2. 志望業界 | ・・・・・・・・ | P3 |
| 3. 志望職種 | ・・・・・・・・ | P4 |
| 4. 就職先企業を選ぶ際に重視する点、希望する働き方 | ・・・・・・・・ | P5 |
| 5. 魅力を感じる採用形態 | ・・・・・・・・ | P7 |
| 6. ベンチャー企業への関心 | ・・・・・・・・ | P7 |
| 7. 就職活動の情報源 | ・・・・・・・・ | P8 |
| 8. 企業研究をする上で知りたい情報 | ・・・・・・・・ | P8 |
| 9. 企業に評価してもらいたいこと | ・・・・・・・・ | P9 |
| 10. インターンシップ等の経験 | ・・・・・・・・ | P10 |
| 11. 留学をした感想 | ・・・・・・・・ | P11 |

【参考】留学費用

《調査概要》

調査対象：CFN (www.careerforum.net) に登録している【日本人留学生】のうち、卒業時期が2022年5月以降の者 11,258人

調査方法：インターネット調査法

調査期間：2023年3月1日～3月20日

有効回答数：585人

回答者の属性 単位：人

留学形態	全体	文系	理系	卒業(予定)年月	全体	留学先地域・国	全体
正規留学	262	185	77	～2023年3月	338	北米	306
交換・派遣留学	270	242	28	～2024年3月	173	英国	93
語学留学	30	-	-	2024年4月～	74	その他ヨーロッパ	115
その他	23	-	-	合計	585	オセアニア	25
合計	585	427	105			アジア	44
						その他	2
						合計	585

※国内学生の調査結果は「キャリアス就活 学生モニター調査」より

1. 海外での勤務希望と海外で働きたい理由

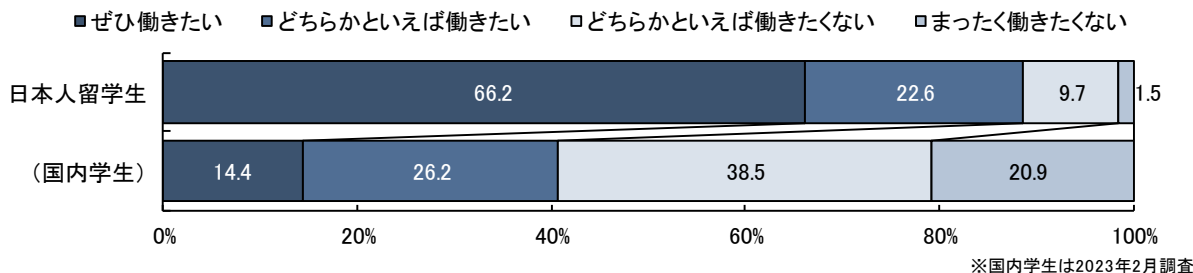
海外の大学への留学経験をもつ日本人留学生は、どのような仕事に就きたいと考えているのだろうか。志望業界や職種のほか、キャリア観などをいくつかの指標で尋ねた。

まず、日本国外（海外）での勤務について希望を尋ね、国内の大学・大学院で学ぶ学生（以下、国内学生）と比較した。留学生は「ぜひ働きたい」が6割強（66.2%）。「どちらかといえば働きたい」（22.6%）も含めると9割近くに上り（計88.8%）、海外勤務への意欲は極めて高い。一方、国内学生は4割にとどまる（計40.6%）。

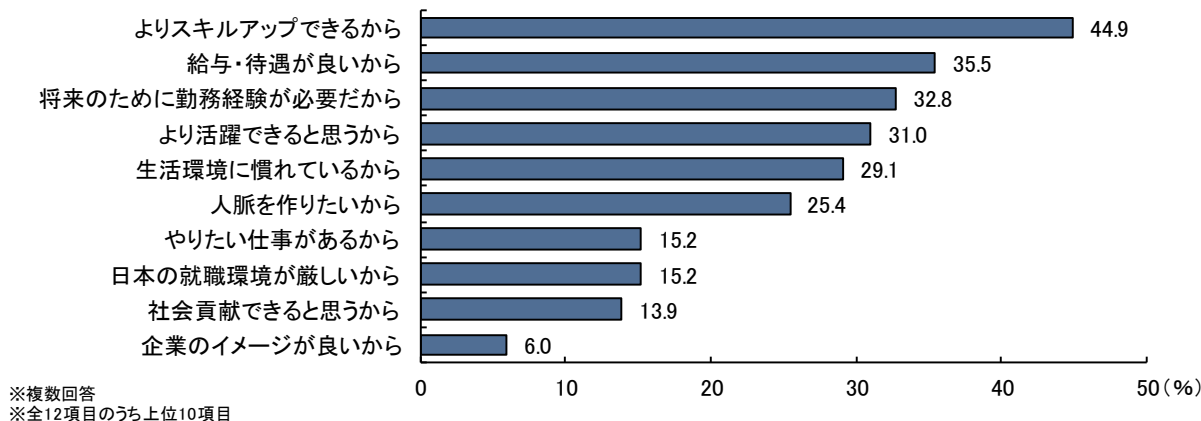
留学生が海外で働きたい理由を見ると、「よりスキルアップできるから」（44.9%）が最も多い。次いで「給与・待遇が良いから」「将来のために勤務経験が必要だから」「より活躍できると思うから」が3割台で続く。成長志向の強さがうかがえる。

働いてみたい国や地域は、「北米」（62.4%）が最多で、「ヨーロッパ」（56.1%）が続く。欧米は留学先としてだけでなく、就業先としての人気も高い。一方で、「東南アジア」が3割を超えており（32.2%）、経済成長国でキャリアを積みたいと考える留学生も少なくない。

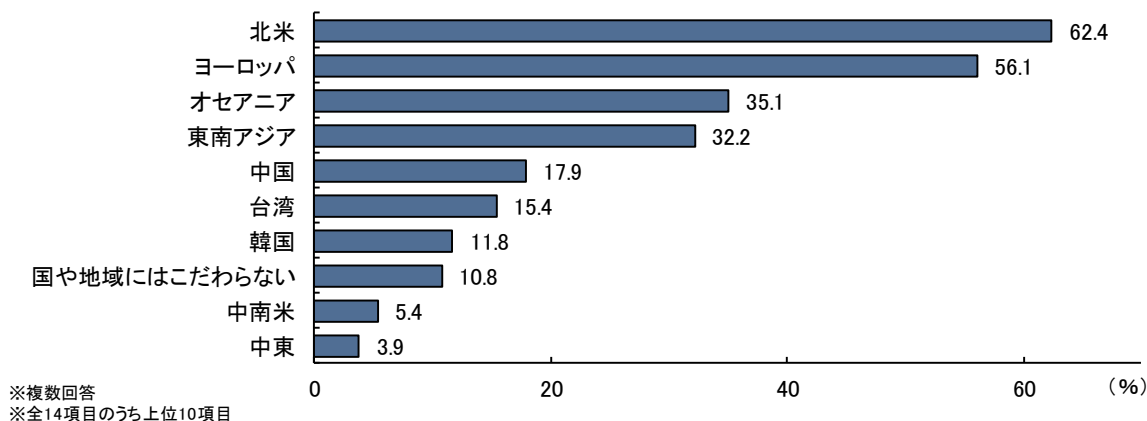
日本国外での勤務希望



日本国外で働きたい理由



将来の希望勤務国・地域

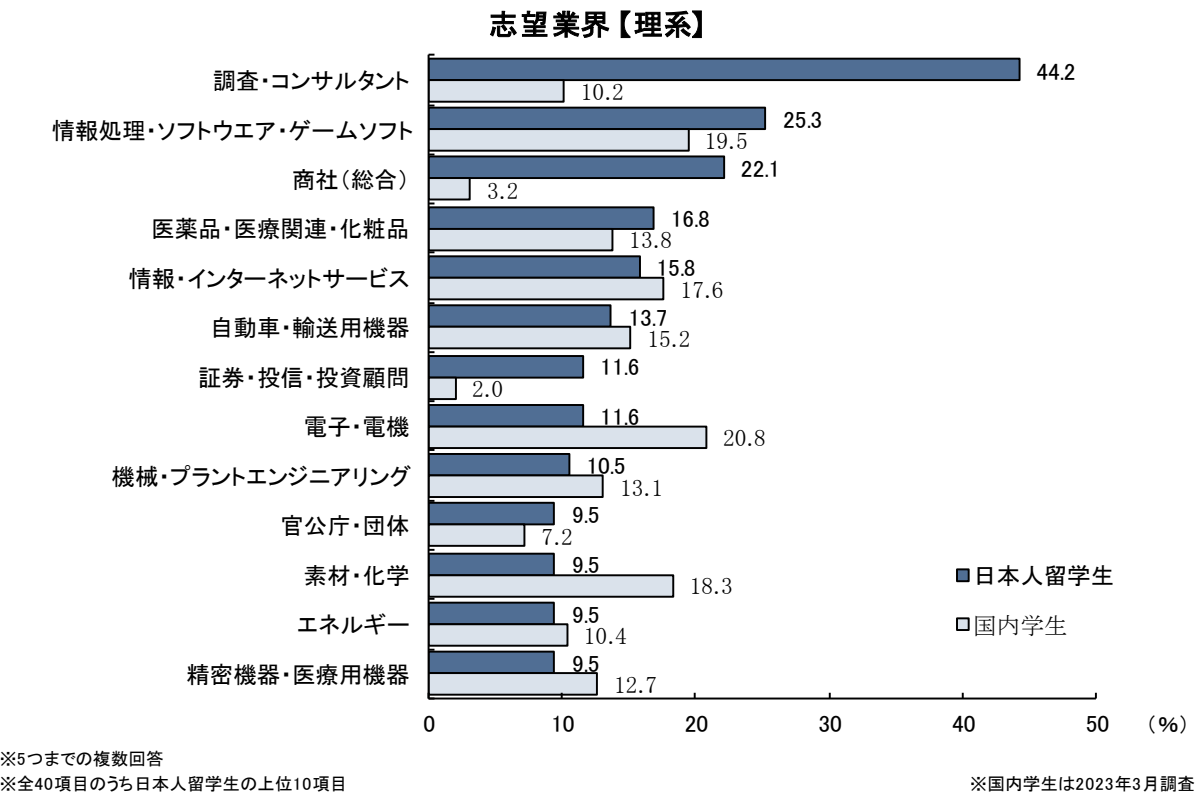
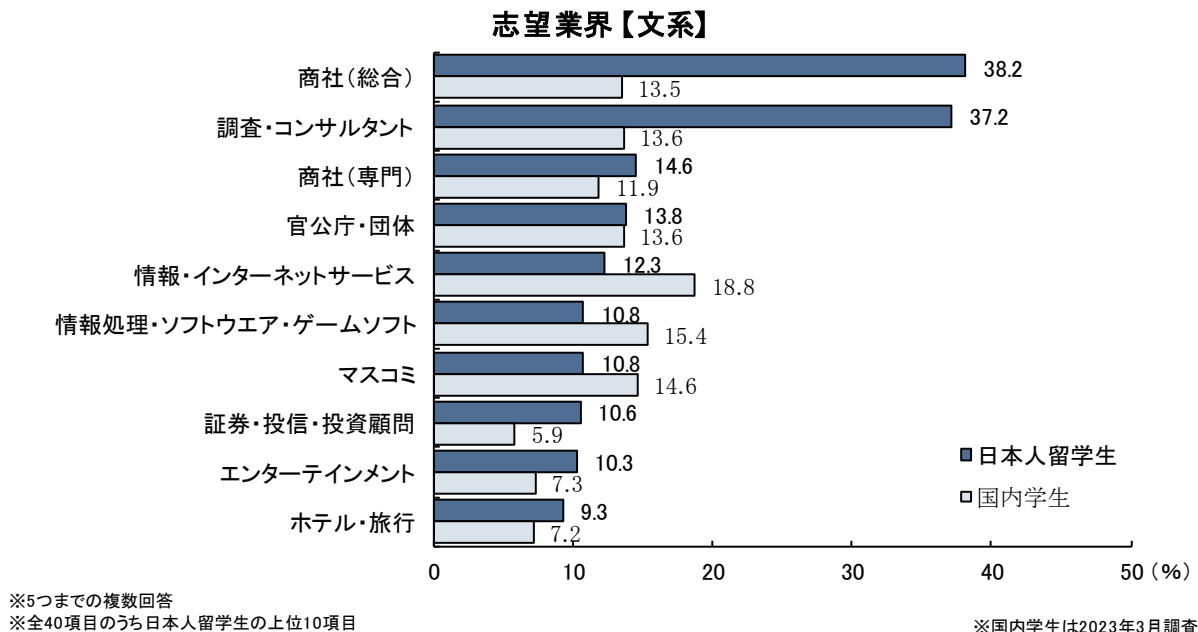


2. 志望業界

続いて、志望業界を文理ごとに集計し、国内学生と比較した。

文系を見ると、留学生は「商社（総合）」（38.2%）と「調査・コンサルタント」（37.2%）の2業界に人気集中している。国内学生は「銀行」（20.2%）が最多だが、留学生では11位（9.0%）。

理系では、留学生は「調査・コンサルタント」（44.2%）が突出している。「情報処理・ソフトウェア」（25.3%）が2番目に多く、IT業界の人気が高いのは国内学生と共通しているが、「商社（総合）」も2割を超えており、国内学生との差が顕著。



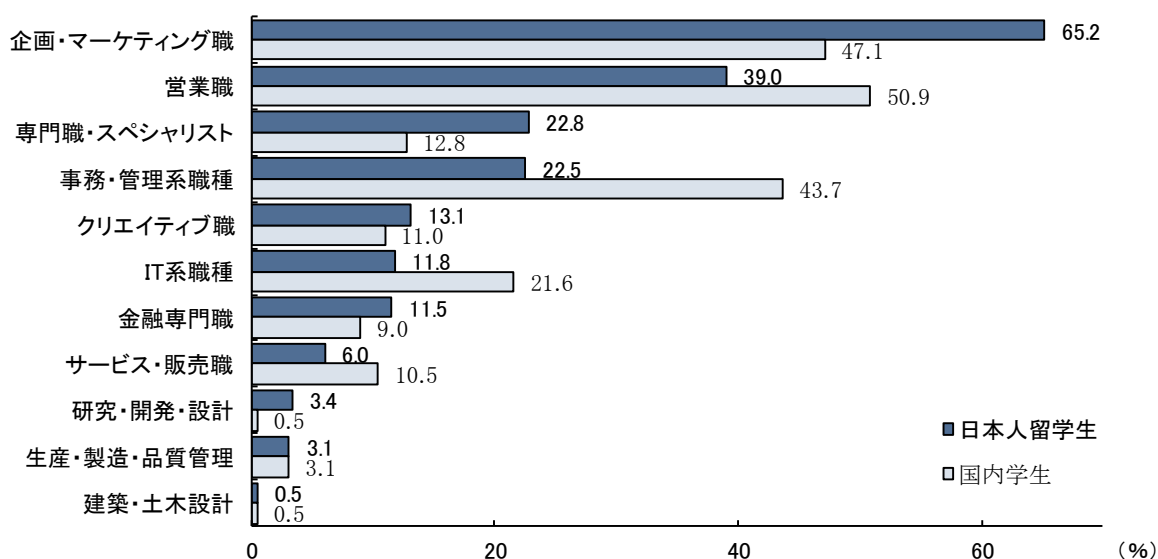
3. 志望職種

志望する職種を、11職種から3つまで選んでもらい、文理ごとに集計した。

文系を見ると、留学生は「企画・マーケティング職」が最多で6割強が志望（65.2%）。国内学生に比べ、20ポイント近く高い。続く「営業職」（39.0%）と4番目の「事務・管理系職種」（22.5%）は、国内学生の方が志望する割合が高い。

理系では、留学生で「企画・マーケティング職」と「IT系職種」が最多（ともに37.2%）。「IT系職種」は国内学生も3割を超えているが、「企画・マーケティング職」は1割台（17.2%）で、その差は20ポイント。一方、留学生で3番目に多い「研究・開発・設計」（33.0%）は、国内学生では5割近くに上る（49.1%）。コンサルタントや商社を志望する留学生とメーカー志望者の多い国内学生とで、志望職種にも違いが表れている。

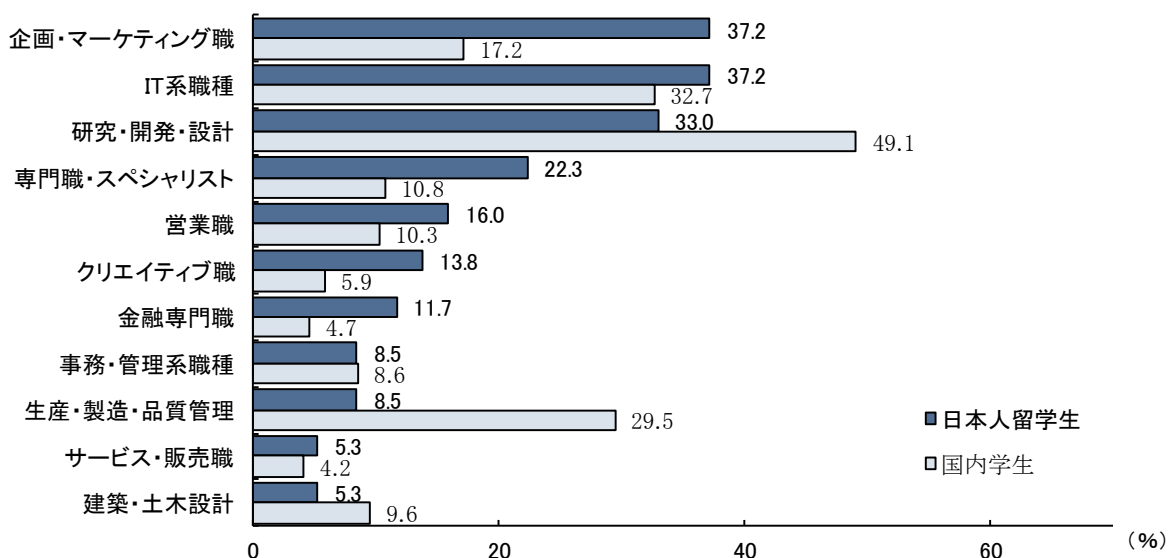
志望職種【文系】



※3つまでの複数回答

※国内学生は2023年3月調査

志望職種【理系】



※3つまでの複数回答

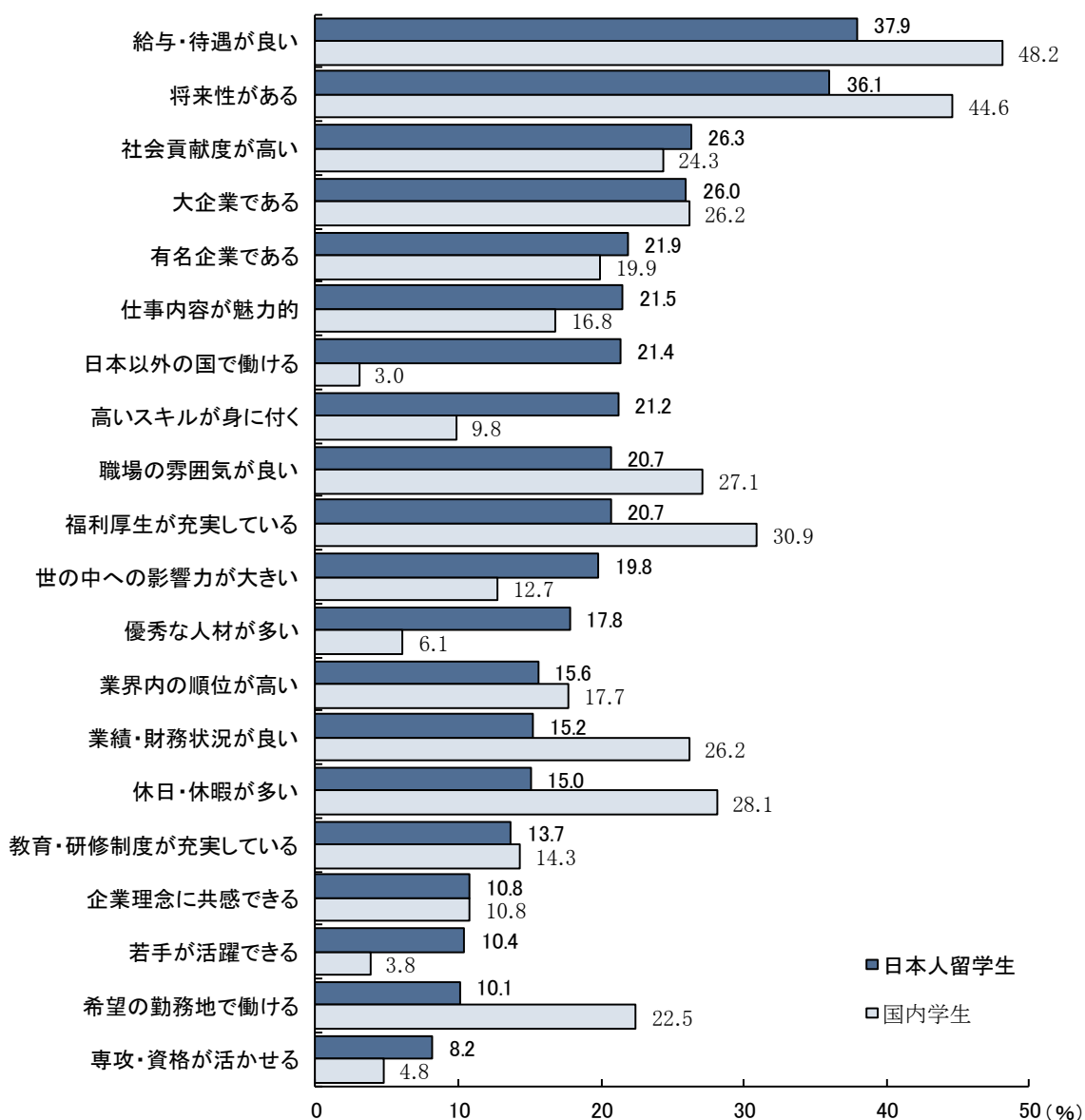
※国内学生は2023年3月調査

4. 就職先企業を選ぶ際に重視する点、希望する働き方

就職先企業を選ぶ際に重視する点を 30 項目から 5 つまで選んでもらい、国内学生の回答と比較した。留学生・国内学生とも「給与・待遇が良い」「将来性がある」が上位 2 位で、留学経験にかかわらず、重視する学生が多いことがわかる。

一方で、両者が大きく異なる項目も見られる。「日本以外の国で働ける」「高いスキルが身に付く」「優秀な人材が多い」といった項目は、留学生の方が大きく上回っており、自身がスキルアップできる環境を求めていることが読み取れる。「福利厚生が充実している」「休日・休暇が多い」「希望の勤務地で働ける」「業績・財務状況が良い」などの項目は、国内学生の方が上回っており、安心して働ける環境を求める学生が多いことがうかがえる。

就職先企業を選ぶ際に重視する点



※5つまでの複数回答
※全30項目のうち日本人留学生の上位20項目

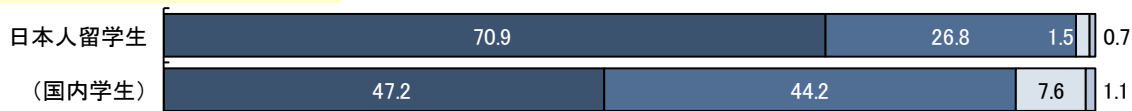
※国内学生は2023年1月調査

次に、就職先企業選びに下記の4つの項目がどの程度影響するかを尋ね、国内学生と比較した。「(1) 仕事を通して成長できること」は、留学生の7割超が「とても影響する」と回答(70.9%)。企業選びで重要な要素であることがわかる。「(2) 多様性のある職場環境であること」は、「とても影響する」が約半数(48.7%)に上り、国内学生との差が顕著。「(3) 柔軟な働き方ができること」は、「影響する」の合計が、留学生で85.4%、国内学生で90.0%と、共通して関心が高い。「(4) SDGsに積極的に取り組んでいること」は、4項目の中では一番「影響する」のポイントが低いものの、国内学生との差は大きく、留学生の関心の高さが読み取れる。

就職先企業選びへの影響度合い

■とても影響する ■ある程度影響する □あまり影響しない □まったく影響しない

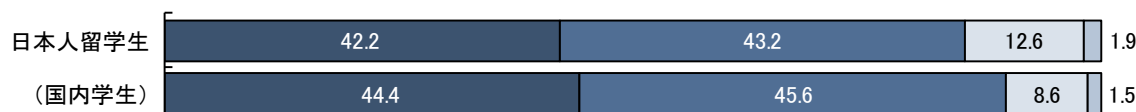
(1) 仕事を通して成長できること



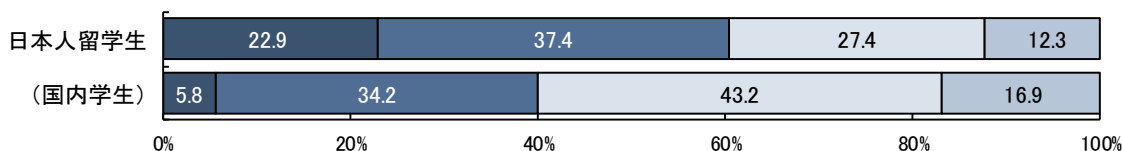
(2) 多様性のある職場環境であること



(3) 柔軟な働き方ができること



(4) SDGsに積極的に取り組んでいること



※国内学生は2023年1月調査、2022年8月調査

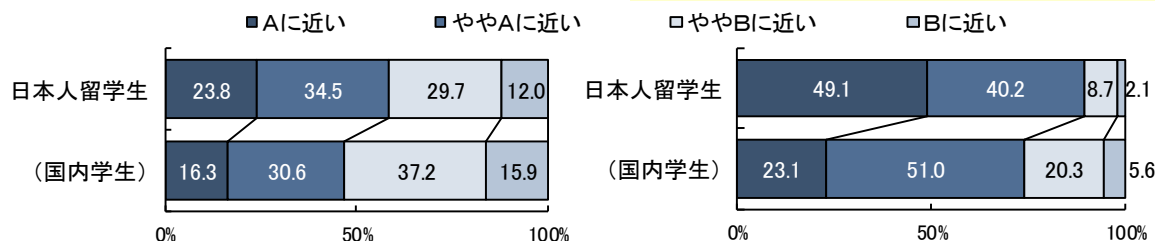
続いて、働き方の指標について対照的な項目を示し、希望に近い方を選んでもらった。

まず、「1つの分野で専門性を高めたい」と考える留学生は合わせて58.3%。「幅広い業務を経験したい」(計41.7%)を大幅に上回る。「キャリアパスは自分で主導権をもちたい」は合計で約9割に上り(計89.3%)、自律的にキャリアを形成したいと考える留学生が大半だ。

働き方についての考え

A. 1つの分野で専門性を高めたい
B. 幅広い業務を経験したい(ジョブローテーション)

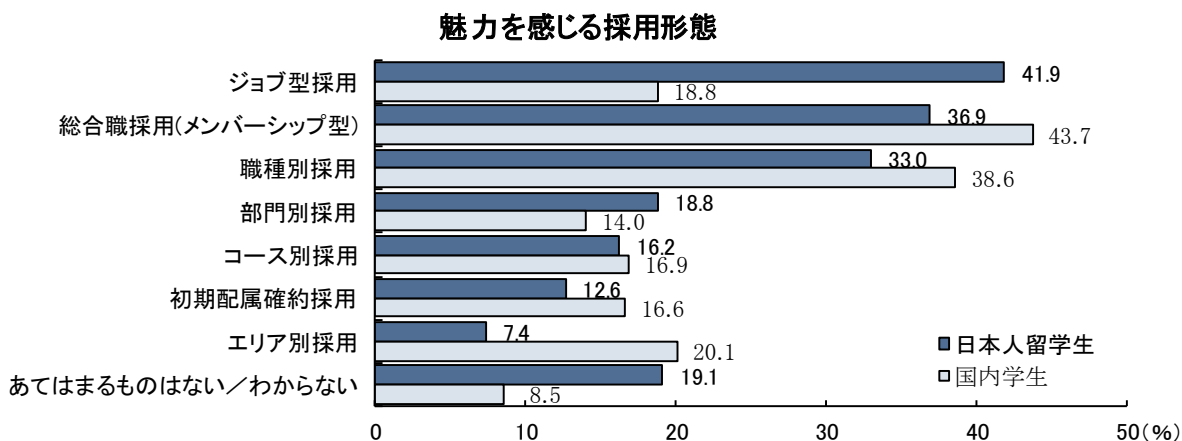
A. キャリアパスは自分で主導権をもちたい
B. 会社に任せたい



※国内学生は2023年2月調査

5. 魅力を感じる採用形態

続いて、どのような採用形態に魅力を感じているのかを尋ねた。留学生は「ジョブ型採用」が最も多く、4割超が選んだ（41.9%）。一方、国内学生は「ジョブ型採用」は2割未満（18.8%）にとどまっており、「総合職採用（メンバーシップ型）」が最多（43.7%）。志向の違いが顕著に表れている。

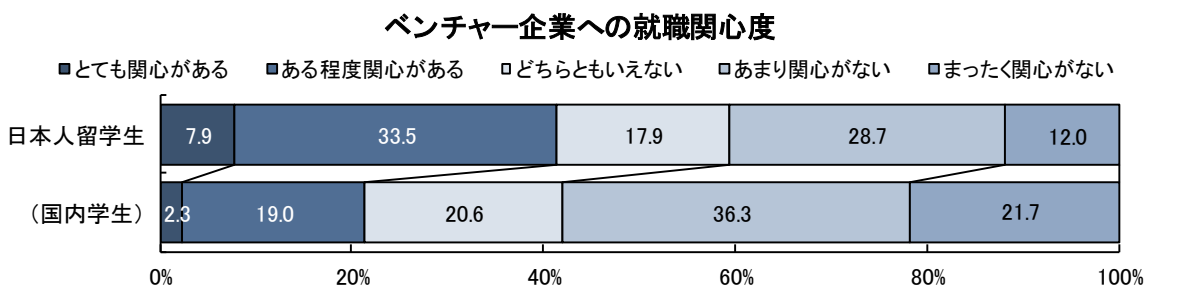


※国内学生は2023年4月調査

6. ベンチャー企業への関心

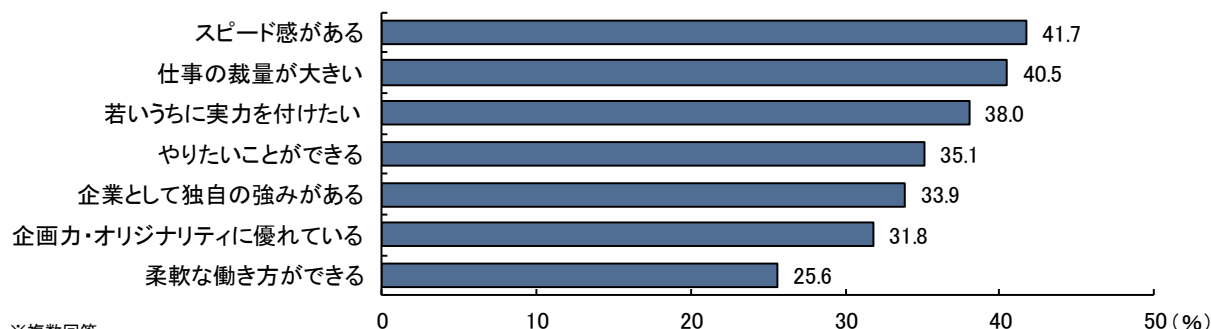
留学生と国内学生の双方にベンチャー企業への就職意向を尋ねた。留学生は「とても関心がある」（7.9%）、「ある程度関心がある」（33.5%）を合わせて4割超が、ベンチャー企業への就職に関心があると回答した（計41.4%）。国内学生ではその半数程度にとどまる（計21.3%）。

留学生がベンチャー企業に関心を持つ理由としては、「スピード感がある」「仕事の裁量が大きい」「若いうちに実力を付けたい」など、個人の成長に繋がるような項目が上位に挙がった。スキルアップや自身の成長に重きを置く留学生にとって、若手のうちから裁量権を持たせてもらえそうなベンチャー企業の環境は魅力的に映るようだ。



※国内学生は2022年11月調査

ベンチャー企業に関心を持っている理由

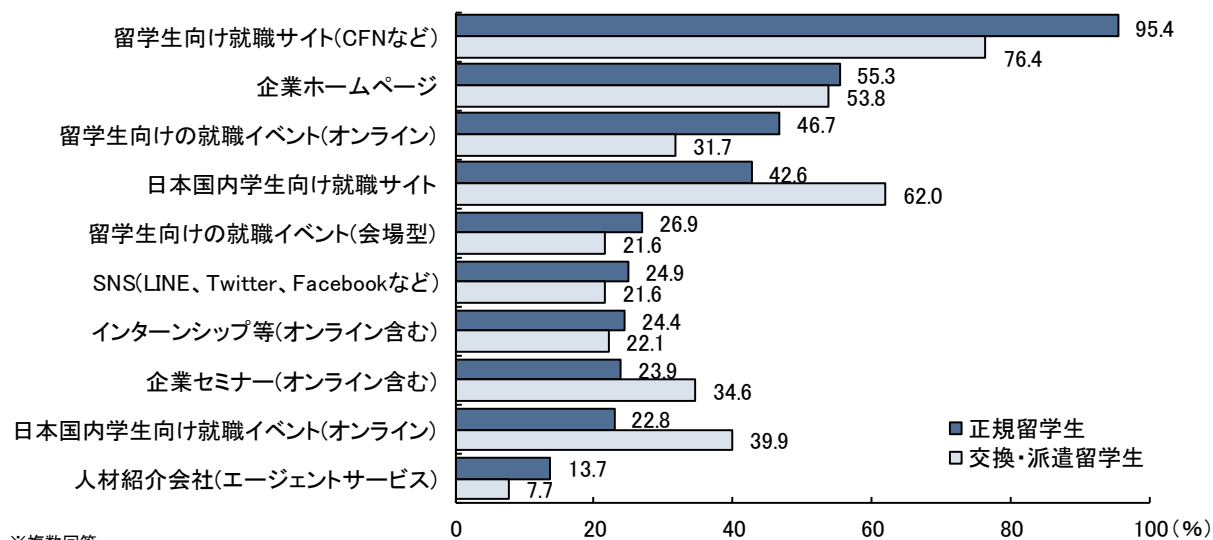


※複数回答
※全14項目のうち上位7項目

7. 就職活動の情報源

就職活動の情報源を尋ね、正規留学生と交換・派遣留学生とで比較した。正規留学生の情報収集は「留学生向け就職サイト」(95.4%)が突出して高く、「企業ホームページ」(55.3%)、「留学生向けの就職イベント(オンライン)」(46.7%)が続く。交換・派遣留学生も「留学生向け就職サイト」が最多(76.4%)。「日本国内学生向け就職サイト」を6割強(62.0%)が選んでおり、併せて活用する学生が多いことが読み取れる。

就職活動の情報源

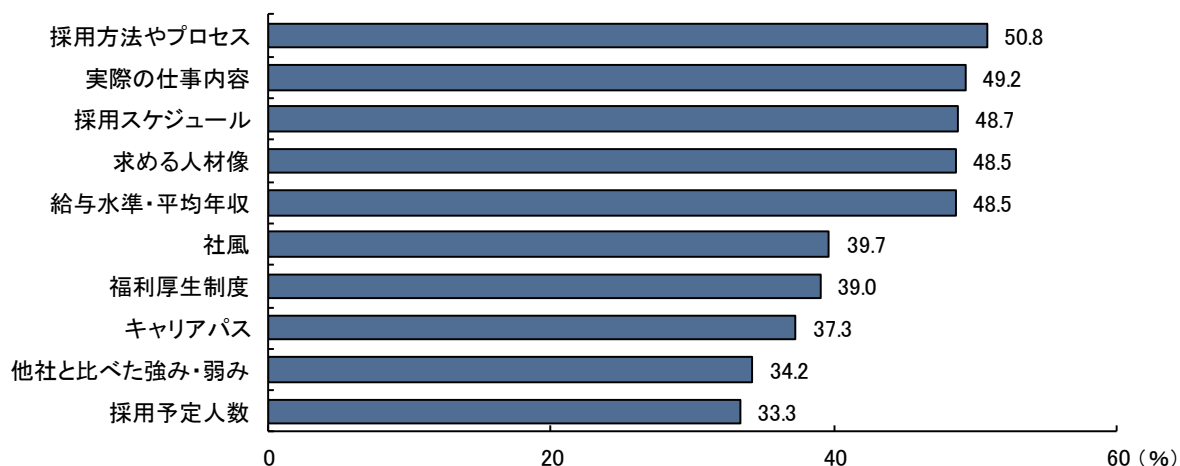


※複数回答
※全18項目のうち正規留学生の上位10項目

8. 企業研究をする上で知りたい情報

企業研究をする上で知りたい(知りたかった)情報について尋ねた。最も多いのは「採用方法やプロセス」(50.8%)。ほかに「採用スケジュール」(48.7%)、「求める人材像」(48.5%)も高く、留学生に特化した採用選考の有無や時期、プロセスなどについての関心が高いと考えられる。「実際の仕事内容」(49.2%)、「給与水準・平均年収」(48.5%)も5割弱あり、業務内容や待遇について、より具体的な情報を求めているのだろう。留学生を採用したい企業には様々な角度からの情報発信が求められていると言える。

企業研究をする上で知りたい情報

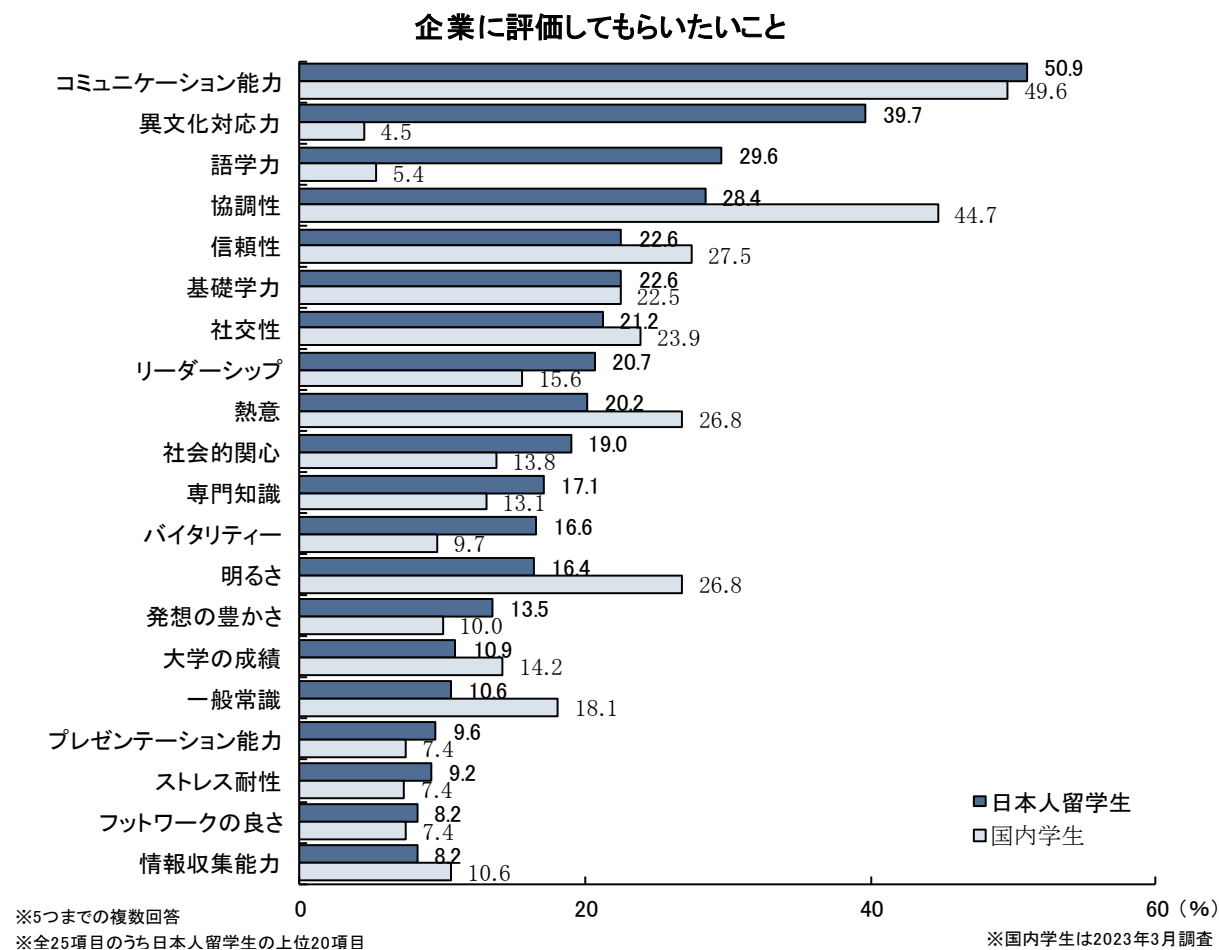


※複数回答
※全21項目のうち上位10項目

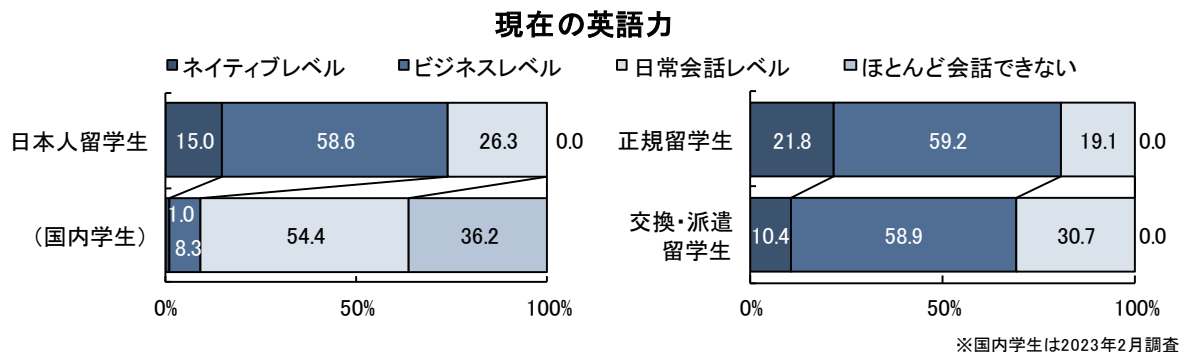
9. 企業に評価してもらいたいこと

採用選考にあたって企業に評価してもらいたいことを尋ね、国内学生と比較した。留学生・国内学生ともに「コミュニケーション能力」が最多だが、「異文化対応力」「語学力」「リーダーシップ」「バイタリティー」などは、国内学生と比べて留学生のポイントが高いのが目立つ。留学経験を通じて向上させた能力やスキルを評価してもらいたいと考える学生が多いことがうかがえる。

一方、国内学生は「協調性」「信頼性」「熱意」「明るさ」などのポイントが留学生よりも高く、自身の人柄や、会社に対する想いを評価してもらいたい学生が多いようだ。



なお、留学生の現在の英語力は、「ネイティブレベル」が 15.0%、「ビジネスレベル」が 58.6%と、ビジネスで英語を使うことができるとの回答が 7 割強に上り（計 73.6%）、国内学生（計 9.3%）に比べ圧倒的に高い。

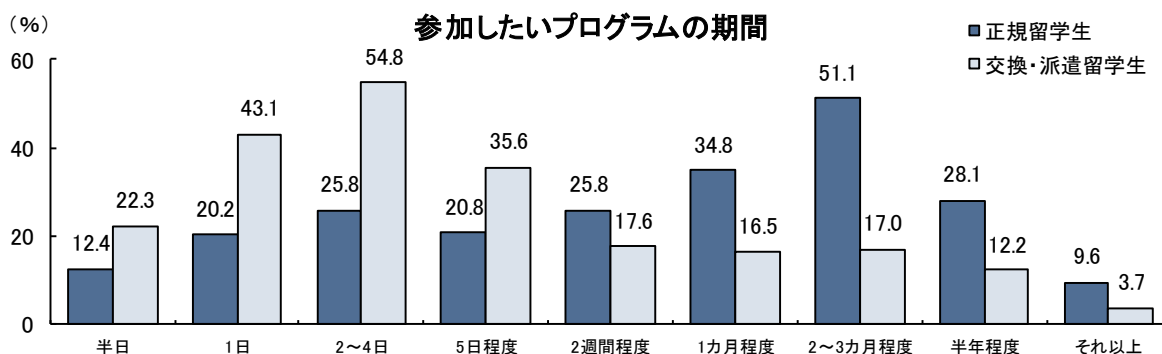
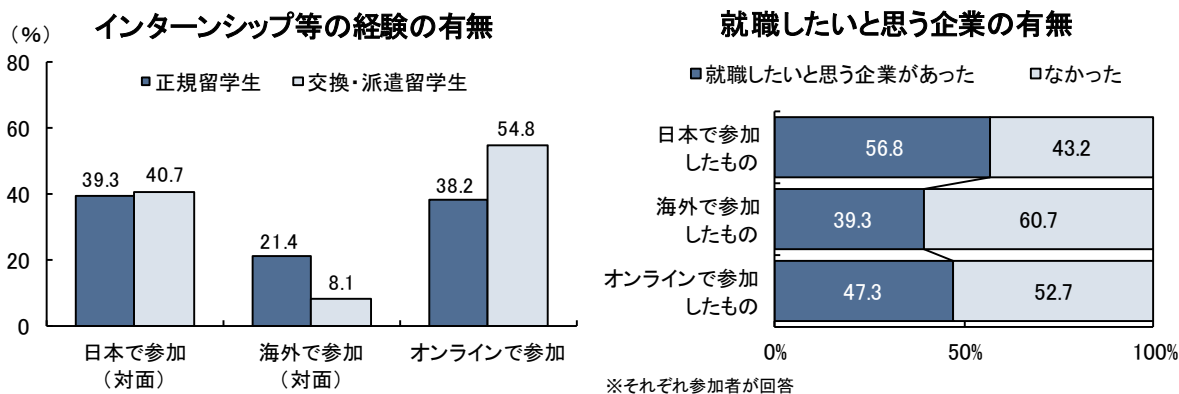


10. インターンシップ等の経験

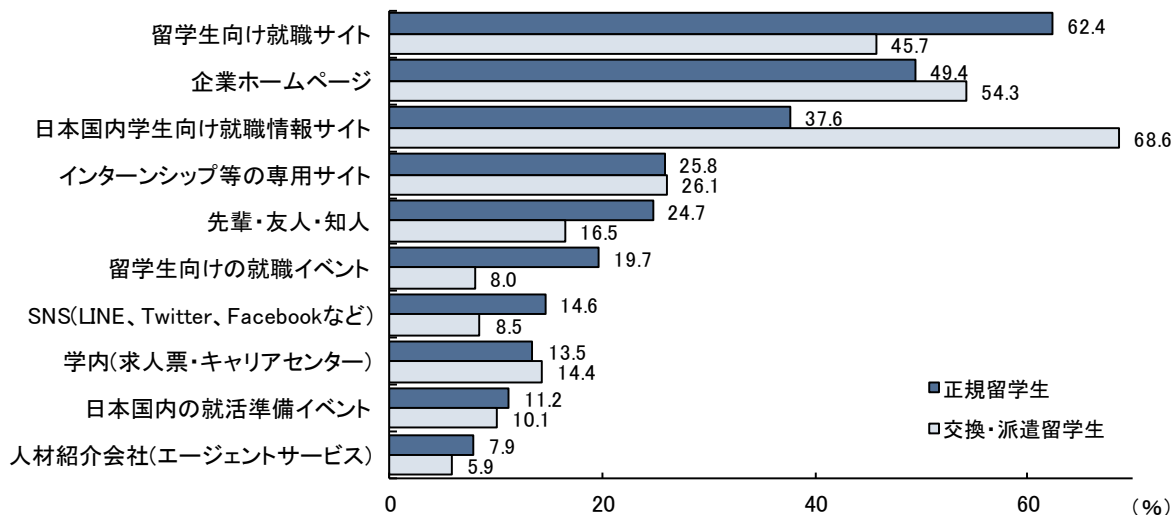
インターンシップ等のプログラムへの参加経験を、就業場所・形式ごとに尋ねた。正規留学生では「日本で参加（対面）」（39.3%）、「オンラインで参加」（38.2%）がともに4割弱。交換・派遣留学生では「オンラインで参加」が半数超（54.8%）で、「日本で参加」も4割と多い（40.7%）。

参加企業のうち、就職したいと思う企業があったかを重ねて尋ねた。「日本で参加したもの」では5割台後半（56.8%）、「オンライン」では半数近くに上っており（47.3%）、インターンシップ等への参加をきっかけに就職先として志望する学生も多いことがわかる。

なお、場所や形式にかかわらず、どのくらいの期間のものに参加したいかを尋ねたところ、交換・派遣留学生では「2～4日」「1日」など短期のものが多いのに対し、正規留学生では「2～3カ月程度」が半数を超えるなど、長期プログラムへの参加を希望する割合が高い。



インターンシップ等を探す手段

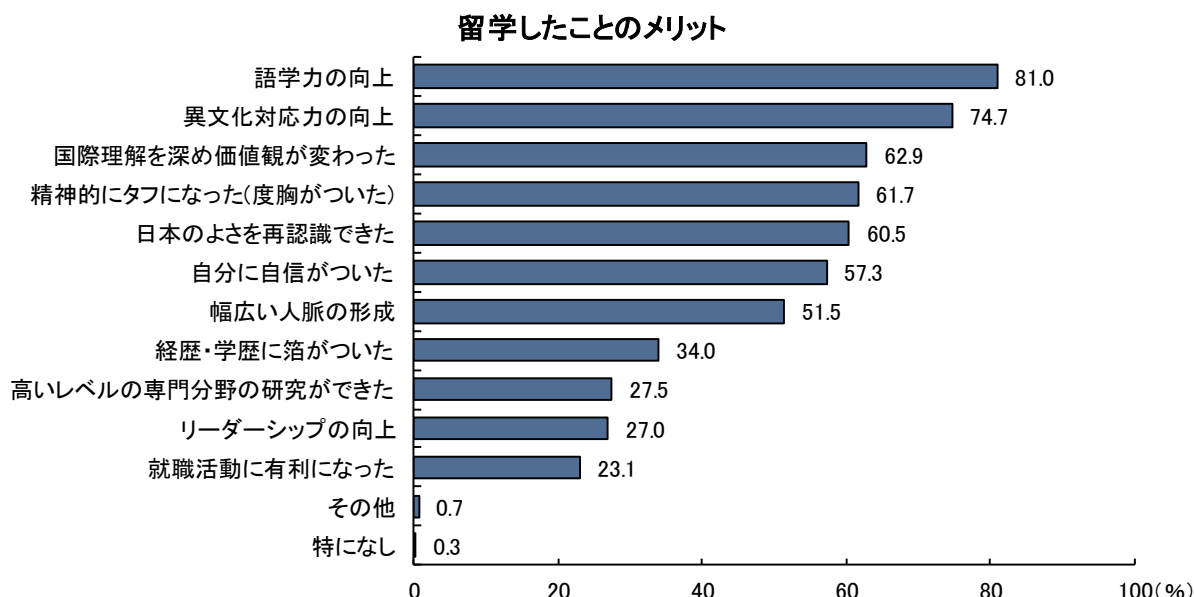
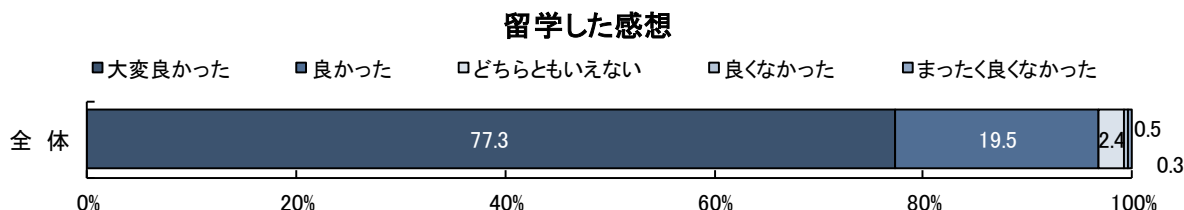


※全12項目のうち正規留学生の上位10項目

11. 留学をした感想

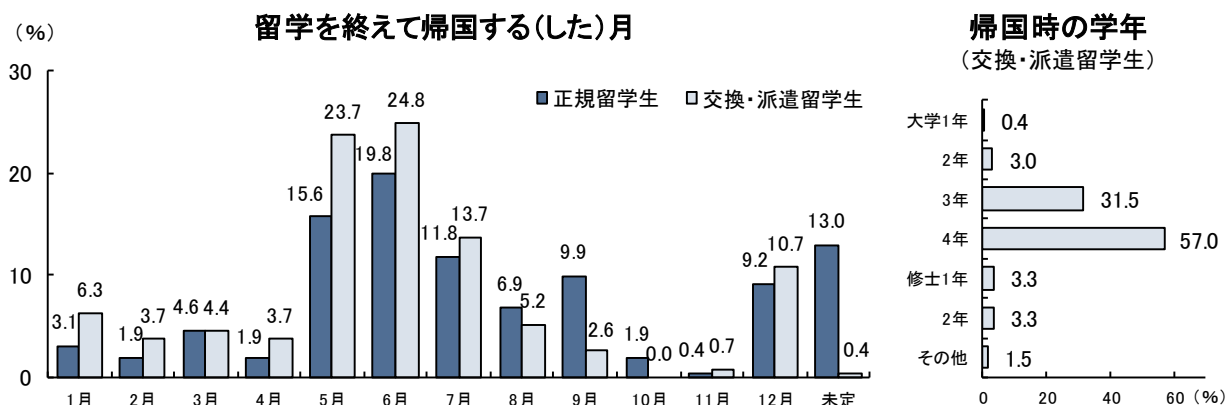
最後に、留学全般についての感想を尋ねた。「大変良かった」が 8 割近くに上り（77.3%）、「良かった」（19.5%）を合わせると 96.8%と、満足度は極めて高い。

留学の成果としては、「語学力の向上」（81.0%）、「異文化対応力の向上」（74.7%）、「国際理解を深め価値観が変わった」（62.9%）、「精神的にタフになった」（61.7%）などが上位に挙がった。グローバル人材として活躍する上での素養を、留学を通じて培うことができた留学生が多いことがうかがえる。



※複数回答

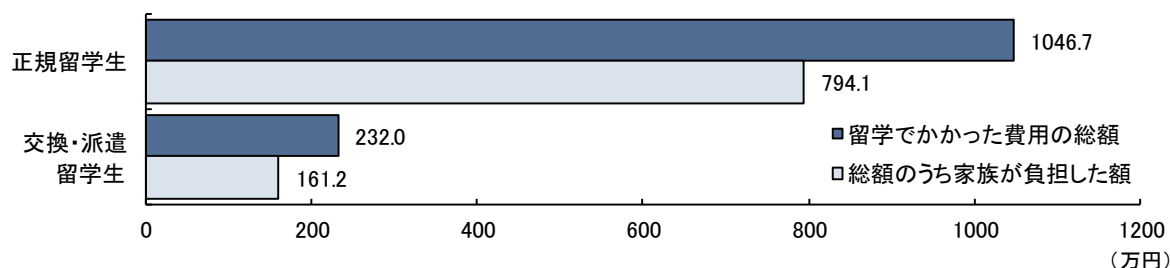
なお、留学を終えて帰国する時期は、正規留学生、交換・派遣留学生ともに 6 月と 5 月が多い。交換・派遣留学生の帰国時の学年は「大学 4 年生」が最も多く 6 割弱（57.0%）。



【参考】留学費用

留学費用について、実際にかかった額と、そのうち家族が負担した額を尋ねた。正規留学生の費用の総額は平均 1,046.7 万円で、留学期間が比較的短い交換・派遣留学生（232.0 万円）の 4 倍以上に上る。また、留学形態に関わらず費用の多くを家族に頼っており、平均で 7 割前後を家族が負担している。

留学でかかった(かかる予定の)費用



■留学して良かったこと

- 語学力、専門分野の知識、対人能力、行動力、あらゆる能力が向上した。日本と比較することで双方の良い点悪い点を知ることができた。就活にも明らかに有利だと感じる。 <正規留学>
- 留学しなければ味わえない困難に遭い、乗り越えることで自信がついた。人脈が広がった。 <正規留学>
- 失敗してもいいというマインドが身についたことで、チャレンジ精神が鍛えられた。 <正規留学>
- 元々実家暮らしで満足していたが、異国の地で暮らしたことによる生活力、マイノリティーとしての対応力、幅広い人脈など、実際に来てみなければ得られなかったものがたくさんあった。 <交換・派遣留学>
- コロナ禍という逆境の中、海外に踏み出し、寮生活をして様々な国の留学生と合意形成する力を養えた。 <交換・派遣留学>

■留学によるキャリア観への影響

- 留学前は福利厚生、給与、残業時間、プライベートとの両立など、利己的なキャリア観を持っていたが、留学を経て、日本社会への貢献、世の中に与える影響など、より利他的なキャリア観を持つに至った。 <正規留学>
- 日本の企業のジェネラリスト的な働き方ではなく、専門性を身に着け自身でキャリアをコントロールできるような働き方に魅力を感じるようになった。 <正規留学>
- 安定性を重視せず、成長できる（転職に生きる）スキルを最初に獲得しようと思うようになった。海外で働くオプションを真剣に考えるようになった。 <正規留学>
- 実力を評価される外資系を強く希望するようになった（年功序列制は合わないと感じた）。 <正規留学>
- 日本が好きになり、日本のために何かしたいと思うようになった。 <交換・派遣留学>
- あまり大手企業にこだわらなくなった。自分のやりたい事をやろうと思えるようになった。 <交換・派遣留学>

■留学中の就職活動で苦労したこと

- 日本国内での対面の面接に参加ができなかったこと。 <正規留学>
- 就活の仲間が少ないことに困っている。学業と就活の両立が大変。 <正規留学>
- 現地の授業、慣れない環境に加え、ありとあらゆることに挑戦しているため、就職活動が後回しになりがち。 <交換・派遣留学>
- 日本時間で行う就職活動が現地時間の深夜帯で、夜通しでセミナーや面接を受けるのが大変だった。 <交換・派遣留学>